



27
37

養德文庫一覽

第十四年報

自
大正十四年三月
至
大正十五年四月



始



の年寄贈本

一 沿革

本文庫は天理教青年會南越支會の事業に屬し圖書を蒐集保存して公衆の閱覽に供し以て智徳の修養に裨補することを目的とす。明治四十四年十月同會の總會に於て會長大橋永三郎の寄贈せる七百余冊の圖書を基本として圖書館を經營するの議を決し翌四十五年四月十一日閱覽を開始したるが次で五月十八日圖書館令により私立圖書館設置を新潟縣知事に開申せり。大正二年五月より巡回文庫を實施す。四年七月北海道札幌郡豊平町字石山に分館を設け。五年三月以降新潟縣立圖書館より巡回文庫の廻付を受く。七年三月規則を改正す。十年八月二十四日創立十週年記念式を舉行し赤司文部省普通學務局長其他百三十餘名の參列者ありたり。

二 設備

未だ専用の建物を有せざるを以て當分の内天理教南越支教會養徳寮(約卅二坪)を以て之に充つ。閱覽室は定數となく新着書架及陳列棚を置き郷土史料名士の筆蹟參考品等を陳列し新着書は特設の揭示場に揭示し且つ『養徳文庫の榮光』を希望者に頒つ。

三 施設

當地方の事情と設備の不完全とにより多數の館内閱覽者を收容する能はざるを以て當分の館内外携出閱覽を獎勵し居れり。目下館内外閱覽の外施設の重なるもの次の如し。

- イ、養徳巡回文庫 甲乙の二種は定期丙種は不定期なり。小學校青年會工場等に廻付す。
- ロ、讀書會 大正五年以來繼續毎月一回開催し時宜によりては研學旅行をなすことあり。
- ハ、閱覽人懇話會 毎年一回二月十一日に開催し講談等の餘興あり。
- ニ、講演會 時宜により開催す。
- ホ、講習會 時宜により開催す。
- ヘ、郷土史料蒐集及編纂 大正五年來繼續史料の蒐集中(加茂郷土史料叢書第一及加茂先賢遺芳第一は既刊)ト、本文庫に有せざる専門の圖書は希望者の申込を受け縣立圖書館より借受け研學の便を圖り居れり。

四 本年度内に於ける重要事項

- イ、國民精神作興に關する活動寫眞 十四年五月十七日天理教南越支教會と協同して美館に於て晝夜二回映寫し一般の觀覽に供したるが二千三百餘人の入場者ありたり。
- ロ、文學博士大矢透氏は十月四日來庫し小池内廣の遺書及史料等を閱覽せらる。
- ハ、建國祭 二月十一日神武天皇御事蹟に關する圖書並に史跡の寫眞類を陳列し且つ「建國と我等國民の覺悟」と題する主事の講演ありたり。
- ニ、文部省維新史料編纂局より三月中史料借用方依頼ありたるにより之に應じたり。
- ホ、教化事業講習會 三月東京に於て開催せられたるを以て主事出席聴講せり。
- ヘ、靜室記念圖書基金 本年度中に於て受入れたる基金は藤田伊八氏の金二十圓小池廣澄氏の金三十圓にして本年度末現在總額は申込額の完了したる小池廣澄氏の金百五十圓大矢透氏の金百二十圓藤田伊八氏の金八十圓大橋永三郎氏の金六十圓外に米澤元健氏の金一圓石附吉治氏金四十圓(申込額金百圓)玉串料金三十八圓三十錢合計金四百八十九圓三十錢なり。

五 蔵書

本年度末現在蔵書和漢書四千二百九十七冊洋書十六冊合計四千三百十三冊なり。此外新聞雜誌二十餘種を備付く。

六 閱覽成績

(館外及巡回文庫は延數なり)

閱覽人員

種別	兒童	生徒	教員	官公吏	實業	其他	計	本文庫	分合計	總計	開館日數
館内	一、二七	六四九	一七五	九九	四、五五	二、三六	九、二六				
館外	一、六六	一、六八五	三、八三五	一〇四	二七、九〇	六、四三三	四〇、八八三	五四、七九六		五八、〇九七	三〇八
養徳巡回文庫	六九九	一七二	三七四	二六	二、八四	四、八六	四、六七				
縣立巡回文庫	四六	四八九	一四二		一、七三	四二	三、一〇				

閱覽冊數

種別	一般	神書	宗教	哲學倫理	文學	歴史	法制	社會	醫學	工學	産業	美術	計
館内	四、三三	一、五五	一、〇一	三、四〇	一、六八	二、四六	七、八八	一〇四	一、九五	五二	一八、二八		
館外	七、六五	三、六四	五、三三	九、七〇	七、五九	七、九五〇	一、九〇八	九〇	三、五八	八〇五	四八、八三六		
養徳巡回文庫	一、八五	五九五	一、〇四	二、〇五	一、三八	一、三〇〇	三二	六三	九九七	八五	四八、八三六		
縣立巡回文庫	一、三六	四六	三三八	八五〇	五三	一九九	三七	七	一四二	一九	三、九七〇		

七 經費

- ロ、文學博士大矢透氏は十月四日來庫し小池内廣の遺書及史料等を閲覽せらる。
- ハ、建國祭 二月十一日神武天皇御事蹟に關する圖書並に史跡の寫眞類を陳列し且つ「建國と我等國民の覺悟」と題する主事の講演ありたり。
- ニ、文部省維新史料編纂局より三月中史料借用方依頼ありたるにより之に應じたり。
- ホ、教化事業講習會 三月東京に於て開催せられたるを以て主事出席聴講せり。
- ヘ、靜室記念圖書基金 本年度中に於て受入れたる基金は藤田伊八氏の金二十圓小池廣澄氏の金三十圓にして本年度末現在總額は申込額の完了したる小池廣澄氏の金百五十圓大矢透氏の金百二十圓藤田伊八氏の金八十圓大橋永三郎氏の金六十圓外に米澤元健氏の金一圓石附吉治氏の金四十圓(申込額金百圓)玉串料金三十八圓三十錢合計金四百八十九圓三十錢なり。

五 藏 書

本年度末現在藏書和漢書四千二百九十七册洋書十六册合計四千三百十三册なり。此外新聞雜誌二十餘種を備付く。

六 閱覽成績

(館外及巡回文庫は延數なり)

閱覽人員

種別	兒童生徒	教員	官吏	實業	其他	計	本文庫	分合計	總計	開館日數
館内	一、二七七	六四九	一七五	九九	四、五五五	九、二八六				
館外	一、六六六	一、六八五	三、八五五	一〇四	二七、二九〇	四〇、八四三	五四、七九六		五八、〇九七	
養徳巡回文庫	六九九	一七一	三七四	二六	二、八二四	四八六	四、六六七		五八、〇九七	三〇八
縣立巡回文庫	四八六	四八九	四二二	一、七七三	四二	三、三〇一				

閱覽冊數

種別	書類	神學	哲學倫理教育	文學	歷史	法制經濟社會	醫學	工學	產業交通	美術	計
館内	四、三三三	一、五五五	一、〇〇一	三、四六〇	一、六八四	二、四六七	七八八	二〇四	一、九九五	五二	一八、二六六
館外	七、六二五	三、四六四	五、七七三	九、七〇〇	七、五三九	七、九五〇	一、〇七八	九一〇	三、五二八	八〇五	四八、八六六
養徳巡回文庫	一、八八五	五九五	一、四二二	二、〇五五	一、三八八	一、四〇〇	三三七	六二	九九七	八五	九、八八五
縣立巡回文庫	一、三七六	四六	三四八	八五〇	五八三	一九九	三三七	七	一四一	一九二	三、九〇〇

七 經 費

一、經常費收入總額 三〇〇、〇〇〇
 經常費支出總額 三〇〇、〇〇〇

内譯		内譯	
經營者支出	協贊會費	圖書管理費	靜室記念圖書支出總額
七五、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	五三三、一〇〇
天理教南越支教會補助	七五、〇〇〇	特別會計靜室記念圖書基金收入總額	五三三、一〇〇
協贊會費	五三三、一〇〇	内譯	
十三年度ヨリ繰越基金	四三九、三〇〇	基金十五年度へ繰越	四八九、三〇〇
本年度受入基金	五〇、〇〇〇	別途積立	一〇、〇〇〇
十三年度ヨリ剩餘金繰越	一一、五五〇	事業費圖書購入	一〇、三〇〇
利子	三二、二五〇	剩餘金次年度へ繰越	二二、五〇〇

八職員

主事 大橋永三郎
 書記兼司書 大橋清四郎
 同石山分館主任 塚田寅藏

九 養徳文庫協賛會

本年度中協賛會員として圖書費を寄附せられたる各位は左の如し茲に芳名を掲げて感謝の意を表す。
 淺井善吉殿 大橋永三郎殿 大橋由藏殿
 桑原九八殿 近藤政治殿 長澤虎藏殿
 山田象次殿

十 圖書及金品寄贈者

本年度中圖書雜誌史料及金品を寄贈せられし各位は次の如し茲に其御芳名を掲げて感謝の意を表す。

愛國婦人發行所 石附彦一殿 大橋永三郎殿 大橋榮裕殿
 文學博士 大矢透殿 小野靖彦殿 笠原宇一郎殿 鎌田勝太郎殿
 加茂朝學校 加茂織物同業組合 加茂銀行 加茂圖書館
 歸一協會 宮内省 桑原善吉殿 慶應義塾
 小池廣澄殿 佐賀圖書館 神宮神部署新潟支署 官幣大社 淺間神社
 第二高等學校 高橋義彦殿 高野正治殿 帝國在郷軍人會本部
 帝國圖書館 鐵道省 天理教教廳 天理教道友社
 天理教青年會 天理教婦人會 天理教うちわけ社 天理教湖東社
 天理教正道社 天理教正明社 天理教へいしん社 天理教名京社
 天理教南越支教會 東京府社會事業協會 內閣統計局 德島縣立慶光圖書館
 長岡市立互尊文庫 中野財團 名古屋市立圖書館 新潟縣知事官房
 新潟縣內務部 新潟縣水産試驗場 新潟縣農會 新潟縣立圖書館
 新潟縣人會 新潟縣町村長會 日本吃音學校 日本勸業證券株式會社
 東頸城郡教育會 日比谷圖書館 藤田伊八殿 前橋市立圖書館
 松木素彦殿 間宮不二雄殿 南蒲原郡役所 南滿洲鐵道株式會社
 官幣大社 明治神宮 文部省 山口縣立圖書館 安田善三郎殿
 山吉賴奇館 若松市立會津圖書館 早稻田大學 寶文館
 科學知識普及會 荻原石津殿





大正十五年八月二十五日印刷
大正十五年九月一日發行

新潟縣南蒲原郡加茂町大字上條三六番地
發行所 養 德 文 庫
新潟市東中通二番町
印刷所 青 木 印 刷 所
新潟市東中通二番町
印刷者 青 木 信 次 郎

終